

会 議 要 旨

| | |
|-----------|------------------------|
| 会議名 | 平成29年度館山市青少年問題協議会 |
| 開催日 | 平成30年2月7日(水) 午後2時から |
| 開催場所 | 館山市コミュニティセンター 2階 集団指導室 |
| 出席者 | 会長(市長)、委員19名、事務局2名 |
| 公開・非公開の別 | 公開 |
| 非公開の場合の理由 | |
| 傍聴者 | 0名 |

【会議概要・結果等】

1. 開会

2. 館山市青少年問題協議会会長(館山市長)あいさつ

委員の皆さまにおかれては日頃から青少年の健全育成に多大なるご尽力を賜り感謝している。館山市としても学校現場ではもちろん、地域の方々の協力も得ながら、青少年を対象とした各種施策を展開している。本会議は、各団体での活動の状況、課題などを発表してもらい、互いに情報を共有し、関係機関との連携を強化することで、更なる青少年の健全育成を図っていくことを目的としている。市で実施する様々な施策にも反映していきたいと考えているため、積極的にご発言をいただきたい。

3. 委嘱状交付

4. 委員自己紹介

5. 議事

(1) 副会長の選出について(委員互選)

- ・立候補者がいないため事務局案を発表 石橋寿一委員(館山市社会教育委員議長)
- ・一同了承のため承認

(2) 平成29年度館山市青少年健全育成関連事業報告について

- ・事務局(生涯学習課)より平成29年度に実施、また、実施予定の事業概要について説明を行った。また、青少年を対象とした各種ソフト事業について、その多くを教育委員会が実施していることから、教育委員会各課が実施する事業報告が中心となっているが、青少年健全育成に関しては、福祉部局等も含め全庁的に対応している旨、併せて説明を行った。

(3) 「安房高校校長から見た高校生の現状」について

- ・千葉県立安房高等学校長の立場から庄司委員に現在の高校生が抱える課題、学校としての対応などについて、発表していただいた。概要については以下のとおり。
- ・安房管内4高等学校の校長会議を毎月行っている。自身としては安房高校の校長という立場であるため、安房管内全ての高校生の状況ということではないが、校長会議で聞いた各校校長からの話も含め発表する。
- ・安房高生に関しては進学を選択する生徒も多い中、就職を選択する生徒もいるが、就職率

は100%であり、就職難は去った印象がある。職業安定所の求人率も高いことも影響している。ただ、高校で学んだ技術知識とギャップがあるようで就職してから困ってしまうこともあるようである。

- ・高校進学については、普通科志望の傾向がある。
- ・最近の高校生は大人しくなった印象がある。具体的なデータがあるわけではないが、飲酒、喫煙、集団的非行については減少している実感もある。
- ・女子生徒がしっかりしている。
- ・今の子どもたちは自分の意見を積極的に発信できない。我慢しており我慢しきれなくなると一気に自虐的な反応をしてしまうことがある。
- ・保護者対応に苦慮することもある。学校側で改善できることは意見を聴いて積極的に対応しているが、成績が伸びないことについて「職員の指導の仕方が悪い」「鼻肩している」などの意見もある。また、校則について「家の子どもは特別例外を認めて欲しい」などの意見をもらうこともあり対応に苦慮することもある。
- ・以前、安房高校でアンケート調査を実施した結果、将来地元で生活したいと答えた生徒は50%であり、本地域の自然、歴史、人々のあたたかさなどを実感していることが伺える。これは、小中学校で地域を学ぶ授業を展開していることの効果と考えられる。
- ・一方、一度進学等により地域を離れた生徒から話を聞くと、都会の便利さ、モノの充実から自身が育った地域を「田舎」と呼ぶことが多くなる。就職に関しても雇用条件などを比較した際、選択肢も充実していることから都会の方が魅力的に感じているようである。
- ・今の子どもたちは塾、習い事、スポーツなど忙しい。自宅に戻っても家族構成もあるが、スマートフォンに向き合う時間も多く、遊び、人と人との関連性が少なくなっている。
- ・テストの結果、記録など目に見える能力「認知できる能力」は高いためリーダーとして育つのは早く評価が高い。現在の世の中が認知できる能力で評価される傾向が強いためとも考えられるが、耐える力、生きる力など目に見えない「認知できない能力」が低いことが心配であり、目に見えない力を育てていく必要があると感じる。

(4) 意見交換会

- ◎安房高生が通学途中に散乱していたゴミ集積場所周辺のゴミを一人で片付けていた。それを見た市環境課職員も感激して一緒にゴミ拾いを行った。通学途中、ゴミが散乱していることを見過ごしもせず、わざわざ自転車を降りてゴミを拾うことは中々出来ない。悪いことは直さなければならないが、良さを認めて子どもたちを延ばしていくことが大切。
- ◎スポーツ少年団の活動を通じて感じるのだが、子どもの数が少なくなり中学校でも希望する部活動を行うことができない。また、社会的な問題となっているが、部活動への対応など中学校の教員の負担は大きくなっている。
- ◎子どもたちの様子を見てみると休んだ友人の心配をしている子どもたちもいて子どもたちが優しいという印象を受ける。
- ◎スマートフォン、携帯電話の所有率は高い。電子機器を上手に使っている高校生もいるようであるが、夜遅くまで使用して、睡眠不足になっている子どももいる。
- ◎モンスターペアレントが社会問題になっているが、スポーツ少年団活動においては、役員として協力いただいている保護者もおおり、定期的に意見を聴く機会も設けている。
- ◎市教育委員会として学校への携帯持込は原則禁止という方針としているが、家庭の事情もあるため、保護者との連絡用（迎えのため等）に必要な生徒に関しては、登校後、学校で預かり、下校時に返却しているケースもある。

- ◎以前、動画投稿サイト（ユーチューブ）に生徒自身が写った動画を投稿した事例があったため注意を行ったことがある。
- ◎子どもの自主性が無くなっているように感じる。子どもたちには連絡用に携帯電話、スマートフォンを持たせているが、依存傾向にある。核家族化や両親の共働きなど家庭環境の変化も影響していると感じる。ただ、時代や環境がかわっても子どもの良い所を延ばす、悪いことはしっかり叱るという点に関しては家庭の役割は重要である。
- ◎読み聞かせ、プール指導、外国語指導など、地域住民が学校活動に協力してくれることは大変有り難い。事務職員もいるが、印刷などの事務補助をしてくれるボランティアの方がいれば、なお有り難い。
- ◎庄司委員から話もあったが可視化、認知できない能力が伸びないのは、体験、経験が少ないことも関係していると考えられる。学校現場ではできない様々な事業を市や各種団体が行っているが、子どもたちが様々な経験をするために今後も必要なこと。
- ◎学校現場では教員が忙しい。家庭の役割の一部も担っている。教員が子どもたちと一緒に過ごすことができるよう、地域の方の協力は必要。
- ◎警察として把握している状況からも飲酒、喫煙での事案は減っている。安房の子どもたちは落ち着いている印象がある。以前も市内の中学生が夜に一人で歩いている幼児を保護してくれたことがあった。安房地区は良い環境だと感じている。
- ◎警察としても携帯電話のルールについて、積極的に教育活動をしていかなければと考えている。携帯電話は防犯対策として有効なものであり、要は使い方の問題である。使い方を間違えると怖いものであることなど具体的な教育活動が必要。
- ◎家庭の貧困の問題について、母子家庭、父子家庭などの場合、親が病気のため、子どもが生活を支えており、学校に通えないという事例もある。そのような家庭に対しても、社会全体で支えられる仕組み作り、子どもが学ぶことができないという環境を無くさなければならぬ。
- ◎学校現場においても「貧困」に関しては判断が難しい場合がある。親が何かしらの原因により働けないため本当に貧困なのか、価値観、金銭感覚など親の姿勢により結果的に家庭が貧困になっている場合もある。平成30年度から市として不登校対策事業を実施するが不登校対策だけでなく、総合教育支援センター的な各家庭に対し、総合的な支援ができるような仕組みづくりをしていきたい。
- ◎母子父子家庭は増加している。対応は一律ではなくケースにより時間もかかる。学校現場だけでは対応できないため、行政、地域も連携した取り組みが必要である。
- ◎県としては昭和38年から青少年相談員制度を創設し、現在県内で4,200強の相談員を委嘱している。安房地域振興事務所は安房地区内各市町の連絡協議会の事務局を担っている。
- ◎子どもたちが健やかに成長していくためには、家庭、地域の中で愛情を持って接することが大切であり、また、子どもには、学業でもスポーツでも文化活動でも、何か目標を持たせることが重要であると感じる。特に、学校での部活動は重要な役割を果たしていると感じている。

- ◎健康福祉センターにも不登校、発達障害に関する相談も多く寄せられる。不登校については学校内の問題だけでなく、家庭の事情もあり不登校になるケースもある。また、発達障害については、学校内の行動よりも家庭内での行動が問題となるケースや保護者が子どもの状態を受容できず適切な支援につながらないケースもあり、子どもへの支援に加え、家族への支援も必要と感じている。
- ◎子どもたちの社会性を育てていく必要があるが、子どもが少なくなり、子ども同士の遊びにより培われてきた社会性を育む場が少なくなっている。青少年健全育成関連事業の実施は重要である。
- ◎現在、複合的な福祉課題を抱える家庭に対しては中核地域生活支援センターが関係機関と連携して支援しているが、今後は、そのような家庭への支援も含め、住民等がお互いに支えあえる地域づくりが求められている。
- ◎人権擁護委員協議会の活動として、年3回各小学校を回って、いじめ防止教育活動をおこなっており、子どもたちも真剣に聞いてくれている。協議会の中では子どもだけでなく、保護者も含めていじめなどについて話し合う機会が作ればという意見も出ている。
- ◎青少年相談員の活動として、昨年から成人式でも見守り活動を行っている。実感として本質的に悪い子はいないと感じる。青少年相談員の活動もボランティアで行っており、仕事もあるため、活動時間は制約されるができる範囲で子どもたちの見守りなど続けたい。
- ◎北条地区青少年相談員の活動として、伝統的に北条地区球技大会を実施している。地区内の子ども会対抗のチーム戦であるが、子ども会に入会していない家庭が増え、参加できない児童もいる。社会環境は変化するが、今後も様々な団体の垣根を越えて、子どもたちを対象として、自分たちの活動も幅広く継続していきたい。
- ◎子ども会役員の立場からも加入する家庭が少なくなっていると実感している。PTA役員についても次の役員を探すのが大変である。共通して言えるのは子どもたちのための活動であるが、加入については親の気持ち、事情によることが大きい。子ども会への加入者を増やすための具体的な方法は思いつかないが、地域の子どものために、自身ができることは続けていきたい。
- ◎PTA役員、保護者として学校行事に参加しているが、先生も子どもも一生懸命。スマートフォンの使用方法については良く話題になるが、自身の子どもたちを見ているとも一種の中毒になっているように感じる。
- ◎飲酒、喫煙をする子どもが減っていることは良いこと。一方で自身が子ども時代だったことを考えた時、良いことではないことも含め、様々な経験が自身の経験となり、今に繋がっているように思える。今の子どもたちが様々な経験をどこでするのか不安になる。
- ◎スポーツ少年団の活動を通じて、若い世代の指導者が育っていない。スポーツ少年団の活動についても、参加している子どもと指導者だけでなく、地域の方、保護者の協力は必要である。
- ◎子どもも叱られ慣れていない。自身が子どもたちと接する際には、あいさつと返事については、意識して徹底的に指導している。スポーツだけでなく、生活していく上で一番大切なこと。
- ◎社会福祉協議会でも生活困窮者の支援を行っているが、貧困の捉え方は難しい。様々なケ

ースがあるが、幼少期の経験が影響されている傾向が伺えることから、子どもの頃からの支援が必要であると感じる。

◎男性も育児に積極的に参加する時代ではあるが、母性の果たす役割は大きいのではないかと感じている。父親が育児を行うことは必要であるが、その場その場で父親、母親にはそれぞれ役割があるのではないかと思う。

◎保護司をしている中で子どもの犯罪だけでなく、大人も含めて犯罪件数は減少しているようであるが再犯率が高い。更生に向けては職を持つことが重要であるが、安房管内には「協力雇用主」がない状況である。

◎学校に対して家庭の問題を押し付けているような気がする。社会教育委員会議の場でも、学校、家庭、地域連携、また、それぞれの役割について議論を深めていきたい。

以上